

科目名	地域文化論		英文表記	Regional Culturology		2010年3月15日
教員名：下郡 剛						作成
対象学科	学年	必・選	履修・学修	単位数	授業形態	授業期間
全学科	4年	必修	履修	1単位	講義	半期
目 標	1 沖縄地域社会の理解を目的とし、沖縄の文化・歴史・地理風土などについての認識を深める。2 現代の我々とは異なる思想・価値観を理解することで、多面的なものの見方や考え方ができるようになる。3 現代と異なる形態の国家・社会・宗教等を学ぶことで、現代社会を相対的に把握できる能力を養う。					
高専目標	1	2	3	4	JABEE プログラム名称	全プログラム
	○	○	○	◎	JABEE プログラム教育目標	機械：A-1 B-1 B-3 B-4 C-4 情報：B-2 B-3 C-1 C-3 メディア：B-2 C-1 C-4 生物資源：A-1 B-1 B-3
授業概要、方針、履修上の注意	資・史料を提示し、歴史学的方法論を併せて説明することで、科学的・論理的に考える能力を高める。班単位で学生自ら課題を設定し、調査・発表・全体討論を行う。					
評価方法	PBL研究発表（100％）で評価する（但し評価の対称は、取り組み・討論の内容等を含む）。					
教科書・教材	教員が編集したプリント、プレゼン資料					
参考図書	『沖縄県史』・『那覇市史』・『名護市史』・『浦添市史』					
授 業 計 画						
授 業 項 目	時間	授 業 内 容				
1. 1年間のガイダンス・PBL班編制	2	授業の方針・進め方等についての説明。PBL班編制と注意事項等の説明（PBL1）。				
2. 第1回PBL班会議	2	第1回目のPBL班会議を行い、沖縄の産業・文化・歴史を対称に、班ごとにテーマを設定する（PBL1）				
3. 沖縄戦—教科書問題とメディア報道—	2	現在における沖縄戦認識の一つとして、教科書問題を取り上げ、同問題における大手新聞社の論説を比較検討する。				
4. 沖縄戦—軍事史としての視点から1—	2	太平洋戦争全体の中における沖縄戦の意義について理解する。				
5. 沖縄戦—軍事史としての視点から2—	2	沖縄戦の戦闘推移について、現地の現状を撮影したスライドを見ながら、理解する。				
6. 第2回PBL班会議	2	翌週のPBL中間報告の準備。				
7. PBL中間報告	2	班単位で設定した課題について、これまで調査した内容についての中間報告（PBL1）				
8. 第3回PBL班会議	2	前回の中間報告を踏まえ、今後の課題と対応方法をテーマに、班ごとで会議する（PBL1）				
中間試験	[0]					
9. 沖縄戦—住民被害の実態1—	2	沖縄戦最大の特徴である、住民の被害実態について、教科書問題に発展している集団自決の事例を通して知識を得る。				
10. 沖縄戦—住民被害の実態2—	2	住民被害は何故生じたのか、その背景について、沖縄守備隊の方針を知る。				
11. 第4回PBL班会議	2	次回からの発表にそなえ、最後の会議を持つ（PBL1）				
12. 1・2班PBL研究発表	2	1・2班で調査した課題の最終発表と討論。（PBL1）				
13. 3・4班PBL研究発表	2	3・4班で調査した課題の最終発表と討論。（PBL1）				
14. 5・6班PBL研究発表	2	5・6班で調査した課題の最終発表と討論。（PBL1）				
15 戦跡の現在	2	授業で取り扱った地点の現在の様子をスライド使用して見てゆく。				

学習時間合計	30	実時間	25
学修単位における自学自習時間の保証（レポート頻度など）			